

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0177400322		
法人名	医療法人 アンリー・デュナン会		
事業所名	グループホーム 忘れな草		
所在地	深川市4条12番7号 (電話) 0164-26-2611		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平19年12月14日	評価確定日	平成20年2月4日

【情報提供票より】 (平成19年11月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤 24人, 非常勤3人, 常勤換算	24.28人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	1～3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,250 円		
その他の経費(月額)	・水道光熱費 18,900円 ・暖房費3,150円(11月～4月)		
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,365 円		

(4) 利用者の概要(12月14日現在)

利用者人数	27 名	男性 11 名	女性 16 名
要介護1	5名	要介護2	9名
要介護3	7名	要介護4	4名
要介護5	2名	要支援2	
年齢	平均 84.7 歳	最低 72 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	深川第一病院 深川第一病院歯科口腔外科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

深川駅から近く、商業地域の幹線通りに面した3階建ての3ユニットのグループホームである。病院を改築して建てられているが、もともとが病院とは思えないほど家庭的で暖かみのある内装に成っている。「在宅生活の延長で普通の生活を守る」を基本方針とし、個人の尊重、個々のペースを守る、ケアを実践されている。地域との連携もできており、協力体制も構築され、地域に根ざしている。職員の研修体制は整えられており、常に質のよいサービスを提供しようとしている姿勢が伺える。職員、利用者の表情も穏やかでゆったりとした雰囲気伝わってくるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題としてあげられていた、椅子の音の解消、時計を見やすい物に変える、浴室の洗剤の保管などは改善されており、その他の改善課題も全職員で話し合いがもたれ検討されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各ユニット毎に職員全体で取り組み、最後に管理者がまとめて作成している。評価をケアの向上の機会としてとらえ、これからの業務にいかそうとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成18年7月に1回目が開かれ、以後2ヶ月毎に開催されている。利用者、家族、地域住民、職員が参加し、地域の方々にホームを理解して頂くきっかけとしている。委員会を通して、深川市の祭り時に獅子舞や太鼓がホームにきてくれるようになり、地域との交流が構築されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月一人ひとりの利用者の様子を家族に写真入りで手書きの報告書を送付しています。来訪時には気楽に声をかけ、普段からコミュニケーションはとれている。玄関には意見箱が設置されており、また、家族会、運営推進委員会を通して家族の意見、要望をくみ取ろうとされている。意見や要望が出たときは、迅速に話し合い、ケアに反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者全員が町内会に加入しており、お祭りや季節の行事など積極的に参加している。また、ホームの行事に地域の方々も参加して、近くの保育園の園児が毎日来たり、小学生が総合学習の一環としてボランティアに来るなど交流は盛んである。日常、散歩のときなど地域の方と会話し、また野菜をもらうなど、自然なかたちで地域にとけ込んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を見やすい所に掲示し、職員は日々実践に努めているが、地域密着型サービスとしての理念の見直しは今後の課題としている。	○	様々な場面で、ホームと地域の交流がなされているので、さらに地域密着型としての表現を理念に盛り込まれることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に唱和し、日々理念を念頭に置き実践するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者全員が町内会に加入しており、ホームの家族会のとき町内の方に案内し、一緒に参加してもらっている。散歩のときにおしゃべりしたり、野菜などをもらうこともある。近所の保育園の園児が、毎日来てくれ利用者と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は評価の重要性と意義を理解しており、全職員が自己評価に関わり、評価結果の問題点の改善に意欲的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、ホームの行事や活動が報告されている。その後、職員会議に内容が伝えられ、意見や要望を検討しケアに活かしている。推進会議を通してホームが理解されるようになり、地域の方々がホームの行事に参加されるようになった。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は地域包括センターのケア会議に毎月参加し、ともにサービスの向上に努めている。またここから職員に研修の案内をし、相談などもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に日々の暮らしぶりや心身の状況を伝えている。また、毎月家族に写真入りで利用者の健康状態や様子を手書きで知らせ、金銭出納帳とともに送付している。	○	職員の異動についてはホーム便りには伝えていないのでそのことも伝えることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、職員は積極的に話しかけ意見を言いやすい雰囲気である。また運営推進会議に家族が出席したり、玄関に設置してある意見箱にいつでも意見要望を表せるようになっている。意見要望があれば、迅速に話し合いケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、利用者と馴染みの関係を継続することを大切にしており、職員の異動や離職は最小限に抑える努力をしている。新職員が利用者を受け入れてもらえるように職員全体で配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成の重要性を認識しており、グループホーム協議会や支庁保健所での機会がある毎に順番で参加し、その後職員間で共有化も図られている。内部研修も毎月行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との合同の講習会に参加し意見交換や情報の収集に努め、ケアにいかしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者、家族と面談し見学して頂いた後、入居している。本人がすぐにホームに慣れない場合は、家族がホームに泊まって頂いたりしている。また、3日間試験入所された方もいる。利用者、本人が安心、納得できるよう適切なサービス開始の調節を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの得意なことを見極め、声かけを行い、ガーゼたたみ、布巾縫い、ちゃわん拭きなどの場面作りの支援を行なっています。利用者の経験から味付けなどを教えてもらうこともあり、共に支え合う関係作りが構築されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を採用し、家族、本人から情報を収集している。また、利用者一人ひとりに担当職員を決め、日々の介護から本人の希望や意向を把握し、ミーティングなどで共有されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日誌にケアプランが付けてあり、職員は日々プランをみながら介護をしている。また、利用者の意見や日々の介護から、職員の気づきやアイデアをミーティングなどで話し合い介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しをしている。また、状態が変化したときはその都度、本人、家族、関係者と話し合い、計画を変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望する病院や馴染みの理美容室の送迎、外出の付き添いなど柔軟な支援がなされている。絵手紙教室が月2回開催され、また、演奏会が行われるなど多彩な活動も行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医での受診支援をおこなっている。状態に変化があったときはすぐに、家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、「看取りに関する考え方の方針」を作成して契約のときに同意を家族からもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの性格を把握し、羞恥心や自尊心に配慮しながら、日々のケアを行っている。個人情報を他言しないことは当然の遵守事項として認識されており、個人情報の書類は事務室に保管されている。	○	面会簿が一覧表になっており、個人情報を保護するために単票に切り替えることを検討されることを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の基本的な流れや生活リズムはあるが、利用者の生活歴や体調やペースを大切にその人らしい生活を送れるように支援している。入浴も基本的に週2回だが、その人の体調にあわせ、毎日わかし、本人の体調に合わせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を利用者に相談し、好みの物を取り入れている。食事の準備や後かたづけなど利用者のできることを把握し一緒に行っている。職員も一緒に食事し、サポートの必要な方にさりげなく支援されている。	○	職員は利用者と同じテーブルで食事されていたが、サポートにおわれ会話が少なく伺えた。今後、食事の後にでもゆっくり座って会話や声かけができる余裕を持てるよう工夫されることを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回だが、毎日わかしているもので、利用者が希望すれば対応できる体制になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力に応じて食事の準備や後かたづけ、洗濯物たたみ、布巾の縫い物などそれぞれの役割がある。絵手紙教室、ドッグセラピー、演奏会、カラオケ、折り紙などの楽しみごとの実施によって日常の生活に喜びをみだせるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、通院、など利用者の希望に添って外出支援を行っている。また、月に数回は、ドライブや外食などの行事で気分転換や楽しみごとの支援を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠している。1階の玄関のチャイムで外出を把握している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、災害時に備え水・食料を備蓄している。また災害時の地域の協力体制もできている。	○	避難訓練は実施されているが、利用者の安全をより確実なものとするために、利用者一人ひとりの具体的な避難誘導策などを検討されることを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は体重に応じて目安量が決められており、必要に応じて摂取量を記録している。糖尿病、高血圧の利用者の食事の量や塩分にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くゆったりとしており、もとはが病院とは思えないほど家庭的な作りとなっている。リビングは広く十分にソファが配置され、くつろげるスペースが確保されている。季節の飾り付けや調度品が暖かい雰囲気を出している。気になる臭いもなく、音、光なども適時調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く納戸もあり、ベッドやテーブルいす、タンスが備えつけられている。また、各利用者はそれぞれ使い慣れた馴染みの家具や写真などを持ち込んで、居心地のよい場所としている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。